第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会（ホール審査）総評
コンチェルト AB 部門

●審査員 A
子供たちがカルテットを合わせることで、楽しんで演奏している姿がほほえましかったです。AA、AB 部門では年齢が高くなり、カルテットをよく聞いて上手くアンサンブル出来た方が入賞に結び付いたと思います。
どの部門も全体にレヴェルが高く確実に演奏されており僅差でした。
コンチェルト部門に多くの方が参加して欲しいものです。

●審査員 B
この部門の最終審査に残ったのは二名だけだったので、全体講評という形で書くことは難しいのですが、グレツキの協奏曲について考えてみましょう。（曲名が示すように）若きショパン風であるべきならば、全ての音型において華やかさや軽やかさを求めましょう。ニ短調は通常とてもドラマチックな調性ですが、この曲は例外です。後年少し変わっては来るのですが、若いころのショパンは調のシンボリズムを求めておらず、むしろ色彩に指針を得ていました。この小さな協奏曲からは、メンデルスゾーンや、興味深いことにブラームスのスタイルも聞こえてきます。そしてメンデルスゾーンもブラームスもニ短調でピアノ協奏曲を書いているのです。こうした共通点を小さな傑作の中から探し当てることはとても楽しいことで、探してみるだけの価値はあると思います。そうすることによって皆さんの演奏は更に魅力的で色彩豊かになることでしょう。がんばってください！

●審査員 C
カルテットと楽しそうに演奏されている姿がとても素敵でした。皆さん音楽的にもテクニック的にも高いレベルの演奏でした。ただ、カルテットの響きに合わせながらも、もっと音色変化が出せるといいと思いました。客観的にカルテットとのバランスをとれると更にいいです。アンサンブルのすばらしさを体を通して経験出来る素晴らしい機会だった事と思います。この経験を糧にこれからも音楽を更に深めていって下さい。

●審査員 D
皆さんの情熱的な演奏に大変好感が持てました。ただ、ソロと比べるとカルテットに負けないようにと考えてしまうことは当然かと思います。これはごく自然な考え方だと思いますが、くれぐれも身体的な力を使い過ぎて、音が硬くなりすぎないように注意しましょう。豊かな音を得るためには、あくまでも（力まず）自然な重さの使い方を心がけてください。

●審査員 E
AB 部門は 3 楽章の構成の曲で同じものを弾かれる二人の方でした。
レベルには差がありましたが、日々つみあげてきた結果なので当日の出来というよりは過ぎていったことが見えるステージでした。
それを学びとしてこれからもがんばれると思うので、そのステージを 1 回でも多く経験させていけるコンクールはすばらしいものですね。
審査の先生方もいつもあたたかく見守っていてすごくよいことだと思います。アンサンブルのステージがこれからも広がっていきますように楽しみにしています。ありがとうございます。

●審査員 F
弦楽アンサンブルとの協演で楽しく表現出来ました。レガート、カンタービレが実感として身につくよい機会を得られたと思います。テクニックは良好です。ユニゾンの響き、大きなフレーズ、ブレス、休符の音楽の能力を更に高めて下さい。